

## ○決定愛称名

- ・「甲斐松ノ尾通り」(かいまつのおどおり)

## ○愛称名由来について

「松ノ尾通り」については、「中下条、大下条市街地を横断、甲府駅北口につながる都市計画街路愛宕町下条線建設事業に先立ち、埋蔵文化財の発掘調査が行われた。その結果、およそ 1000 年～850 年前の平安時代初期の生活が忍ばれる遺跡の発見があいつぎ、100 点を越す生活用品鉄製品が発見され、この遺跡を当時教育委員会で松ノ尾遺跡と名づけた。該当道路建設に伴い発見された遺跡群であり、なにか縁を感じる。その遺跡の名前を取り、松ノ尾通りとしたい」とのこと。

ただし、愛称募集している道路に対する「松ノ尾遺跡」のエリアは約 400m であり、響が丘から長塚までの全線約 2,800m の約 15% に過ぎず、また、シャトレーゼの交差点東側をみても、この道路上には、松ノ尾遺跡の西には隣接して三味堂遺跡が、東側には中沢遺跡、村上遺跡がある状況となっている。

そこで、選考いただいた 3 作品「松ノ尾通り」に、「甲斐中央通り」「甲斐なか通り」に共通である「甲斐」の名称を生かし、「甲斐松ノ尾通り」に決定する。

「甲斐」は市の名称であり、大宝 4 年 (704)、中央政府が国内 60 数か国に同じ形の「国印」を一斉に作る時、当てられたのがこの「甲斐」の文字であり、「人が行きかう・美しく盛んで一番」の意味だといわれている。また、この道路からは西に向かうと、甲斐駒ヶ岳を望むことができる。

この道路が、約 1,300 年前の名称 (甲斐) と、その後のこの地での生活の歴史を引き継ぐ (松ノ尾) とともに、快適な生活環境が整っていく響が丘周辺の状態も含み、人が集い、発展する (甲斐) ということを願った名称としてつけるものであります。

## ○市道位置図

